

行政視察報告書

市役所新庁舎建設特別委員会行政視察

平成30年10月22日(月)～23日(火)

視察
及び
視察事項

・平成30年10月22日(月)

群馬県富岡市

1 市役所新庁舎の建設について

(1) 新庁舎建設の経過について

(2) 新庁舎の耐震・免震対策について

(3) 新庁舎建設に際し、世界文化遺産「富岡製糸場」に配慮した対応について

(4) PFIなどの事業手法の検討について

(5) 新庁舎内視察（議会施設含む）

・平成30年10月23日(火)

東京都町田市

2 市役所新庁舎の建設について

(1) 新庁舎建設の経過について

(2) 新庁舎の耐震・免震対策について

(3) PFIなどの事業手法の検討について

(4) 新庁舎内視察（議会施設含む）

・平成30年10月23日(火)

神奈川県茅ヶ崎市

3 市役所新庁舎の建設について

(1) 新庁舎建設の経過について

(2) 新庁舎の耐震・免震対策について

(3) PFIなどの事業手法の検討について

(4) 新庁舎内視察（議会施設含む）

視察結果

富岡市

(1) 新庁舎建設の経過について

平成22年から1年かけ11回の市民検討委員会、基本構想、設計者選定プロポーザルで総事業費31億円が示される。が、東日本大震災の影響で建設費の増大が予測され、設計の見直し後総事業費47,1億円となる。本体工事はJVであっても柱や梁で地元の業者を活用。財政的には電気で太陽光を使い130万削減、雨水使用で110万削減、下水で12万削減など、しかし空調・ガスで400万増額。

(2) 新庁舎の耐震・免震対策について

制震ダンパーを採用。非常用発電設備や受水槽などを活用して災害時には1000人を3日間収容可能。広場やエントランスホールは一時避難所として活用。

(3) 新庁舎建設に際し、世界文化遺産「富岡製糸場」に配慮した対応について

特段気を付けたところは見受けられない。文化庁とも確認はないとのこと。平成30年度完成予定の世界遺産センターと一体的に活用することでにぎわい創出を目指す。

(4) PFIなどの事業手法の検討について

民間の空いている建物を利用する案が市民検討会で示されたが、その建物自体の老朽化もあり活用は断念し、直営となる。

(5) 新庁舎内視察（議会施設含む）

現地建設。旧庁舎内の空いているところや駐車場を活用して建設したため引っ越しが便利。養蚕農家の空調を取り入れ庇とルーバーの効果により熱負荷を削減。ルーバーは富岡産材 5 種類（富岡の森を再現）とアルミを張り合わせている。腰屋根と吹き抜けで自然換気、昼間の光を利用して照明を 20%削減、太陽光パネル利用。雨水はエントランス地下のピットにためてトイレ洗浄用として使用。壁紙には蚕が最初に吐き出すきびそを張る。保湿力など期待できるうえデザイン的にもしやれている。1 階入り口付近の窓口で証明書類が全部発行されるなど 1 回で 80%の用が足せる。構造的には議会棟へ行政棟の 3 階から行けないことが少々不便かと思われた。きびそ始め県産材が多く使われ、空調含めて自然を多く取り入れている。天井は耐火塗装。工事途中を思わせるデザイン。前庭はシルクルひろばと言い、市民から公募して命名、貸出しもしている。視察当日もキッチンカーが来ていた。新庁舎に対し市民からの声として、どこへ行くかわかりにくいの声が来ているとのこと。

町田市

(1) 新庁舎建設の経過について

1996 年耐震診断結果で危険性が指摘される。2002 年耐震補強工事を実施。阪神淡路の後で将来的に建て替えもあるとして最低限の工事とする。2003 年市民アンケート実施、5000 人。2004 年庁内に庁舎建設基本計画策定委員会を設置。2006 年設計者決定。その後市民ワークショップ、有識者の検討などを経て 2009 年実施設計完成。鹿島建設に決定、起工。鹿島が中心ではあるが 30 億円分は地元業者。工事の模様を市民向けに発信。2012 年 7 月新庁舎開庁。防衛庁の補助金 20 億の他、基金を活用。

(2) 新庁舎の耐震・免震対策について

立川断層の上にある。耐震値は 0.6、旧庁舎は 0.6 を下回っていた。耐震性能を 1.5 倍にし震度 7 にも対応。屋上にヘリのボバリングスペースを設け災害時の救援物資の輸送などに利用（本来はヘリを着陸させたかったが財政的な課題で不可能に）。2 回に防災センター。発電設備。地下ピットに雨水槽。

(3) P F I などの事業手法の検討について

様々検討した結果、財政面で直営が有利。開庁が遅れる、市民参加がしにくいなどの課題がある P F I をやめ、直営で第 3 者が監視する CM とし、ニッケン設計が入り、引っ越しまで含めて委託費 1 億円で 17 億の軽減という結果を生み出す。

(4) 新庁舎内視察（議会施設含む）

アトリウムによる温熱環境負荷軽減策、太陽光発電、雨水再利用、屋上緑化、屋上畑。執務室のキャビネットが低く、市民の対応がしやすいと感じた。オリンピックを意識し

5 色にライトアップしている。開庁から 6 年経過し、市民からは高級ではないかとの意見もあるが分散型を集中型にした事をはじめ前より良くなったとの声が多いとのこと。議場については、親子傍聴席、磁気ループが素晴らしい。

茅ヶ崎市

(1) 新庁舎建設の経過について

耐震補強しても建物の耐用年数が伸びるわけではないという判断、いつ地震が来るかわからない、情報ネットワーク、バリアフリーへの対応が困難などの判断から、外部有識者のアドバイスを受けながら基本方針を打ち出す。特徴として高校生のワークショップも開催。2013 年から工事に入り 2016 年竣工。屋上には植栽、ホバリングスペース。

(2) 新庁舎の耐震・免震対策について

平成 22 年の耐震診断では震度 6～7 の震度で倒壊の危険性を指摘される。来庁者が多く診断結果が悪い 1・2 階を分庁舎や仮庁舎に移すことから対策を始める。地下 1 階には免振オイルダンパー、積層ゴムを導入。

(3) P F I などの事業手法の検討について

時間的、検討課題多いことなどで断念、直営とする。

(4) 新庁舎内視察（議会施設含む）

窓口がわかりやすいサインとなり、プライバシー保護の間仕切りなど市民に優しい。議場は一部可動式の机。親子傍聴ルーム設置。

人口規模がほぼ同じであり、大いに参考にすべき。

感想

デザイン的な先進性も大切だが一番は市民にとってわかりやすい、行きたいところに行きやすい構造と丁寧な対応といった人的資源だと感じた。その点で 3 市ともそれぞれ学ぶところ大であった。

平成 30 年 10 月 30 日

松本市議会議長 上條 俊道 様

市役所新庁舎建設特別委員 犬飼 明美